

日時 11月4日(木)・5日(金)

定員 35名

会場 かでる2・7 710会議室

札幌市中央区北2条西7丁目 道民活動センタービル

<http://homepage.kaderu27.or.jp/intoro/access/index.html>

《コーディネーター推進コース》 定員35名

1日目	会場	区分	プログラム	講師 (敬称略)	研修の概要とポイント	
10:00	11/4 (木) 710 会議 室		『研修のねらいとプログラムの概要』	事務局	本プログラムのねらいと研修内容について説明する。	
11:00			『自己紹介－業務の現状と課題』	受講者全員	受講者から業務活動の現状と課題を紹介 本プログラム参加にあたり各自の背景と抱える課題を共有し、今後の課題解決に向けたネットワークづくりの場としていく。 	
12:00			昼食			
13:00		[講演1]	『農林水産分野における技術政策および研究の現状』	農林水産省 農林水産技術会議事務局	『農林水産研究基本計画』における重点研究目標と研究の現状を紹介すると共に現在の事業内容を説明する。 	
14:00		[講義・討議1]	『農林水産系コーディネーターに求める視点』 － 農業系・工業系分野の技術開発の比較か－	八戸 三千男 NPO法人グリーンテクノバンク 事務局長	農林水産分野において活動するコーディネーターの勤所を紹介する。また受講者から提示された課題について全員で討議する。	
15:00			休憩			
15:00		[講義・討議2]	『現場からの提案で行われてきた農林水産関連研究の概観』 － 地域イノベーション創出総合支援事業等の研究課題6500からの分析	齋藤 省吾 九州大学名誉教授 中崎 正好 全日本地域研究交流協会	現場からの農林水産関連研究テーマを俯瞰し、研究の重点化動向を知ると共に受講者から見た課題・視点を討議する。 	
16:00		[講義・討議3]	『研究ニーズの評価の視点』 － 事例による課題設定の特徴付け－	齋藤 省吾 九州大学名誉教授	研究ニーズの評価の視点を技術の選別法から学ぶ。事例の紹介と受講者との討議を通じてポイントを深化する。 	
17:00			解散			
2日目		会場		プログラム	講師 (敬称略)	研修の概要とポイント
10:00	11/5 (金) 710 会議 室	[講演2]	『バイオプリザベーションの食品への利用(発酵による微生物制御)』 － イノベーションに向けた取り組み事例Ⅰ－	山本 晃司 愛知県産業技術研究所 食品工業技術センター発酵技術室 主任研究員	産学連携の実績事例から課題解決推進に向けてのポイントを探る。 グループ討議でのケースメソッドの事例として視点を整理する。 	
11:00		[講演3]	『酪農・食品系排水の非生物(旋回噴流式オゾン酸化)処理システム』 － イノベーションに向けた取り組み事例Ⅱ－	設楽 守良 株式会社ヒューエンス 代表取締役	異分野連携の取り組み事例から課題解決に向けてのポイントを探る。 グループ討議でのケースメソッドの事例として視点を整理する。	
12:00			昼食			
13:00		[ケースメソッド]	『現場ニーズに即した研究計画をつくるには？－計画形成のポイント』 － 事例による課題設定手法の解説－	齋藤 省吾 九州大学名誉教授	グループ討議のアプローチについてケース事例をもとに検討方法を示す。 	
14:00			グループ討議	グループ討議	[総括] 齋藤 省吾 九州大学名誉教授 山本 晃司 愛知県産業技術研究所主任研究員 丸山 敏彦 元北海道工業試験場長	[講演2]・[講演3]の取り組み事例からケースメソッドを行う。当該事例での研究ニーズの洗い出しと研究課題の設定・課題解決までのポイントを整理する。さらに新たな視点での課題解決の方策を討議し提案する。 
15:00			[ケースメソッド] ケース事例分析①	[ケースメソッド] ケース事例分析②		
16:00			休憩			
16:00			ケース事例分析発表・全体討議	受講者代表		各ケース事例の分析結果を発表しポイントを共有する。
17:00			研修総括	各総括		
17:00			解散			

* 都合によりプログラムを一部変更する場合があります。

運営事務局 財団法人 全日本地域研究交流協会
当日連絡先 090-6307-9393 担当 鈴木・長嶋